

臨床スポーツ医学 2014 年臨時増刊号(31 巻) スポーツ障害理学療法ガイド

【正誤表】

本書におきまして、以下の通り記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

- p. 231 色アミの文章を追加いたします。

本稿では lateral thrust の解釈とその評価、予防・治療的側面としてのインソールについて述べていく。
なお、インソールに関する評価と作製に関しては、入谷式足底板に準じたものである。

- p. 234 図 4, 5 の図説に引用表記を追加いたします。

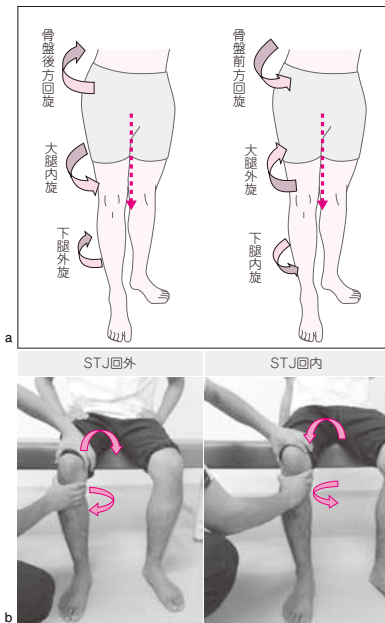


図 4 ● 距骨下関節の運動連鎖 (a) と徒手誘導 (b)
a 距骨下関節が回外・回内した場合の近位体節に起こる運動。
b 大腿遠位部と下腿近位部の誘導にて、間接的に距骨下関節の回外と回内の誘導を実施する(左: 遠位大腿の内旋と近位下腿の外旋誘導, 右: 遠位大腿の外旋と近位下腿の内旋誘導)。
(図 4a: 入谷誠: 足底板セミナー中級編, 16. 身体運動学的アプローチ研究会, 2011 より引用)

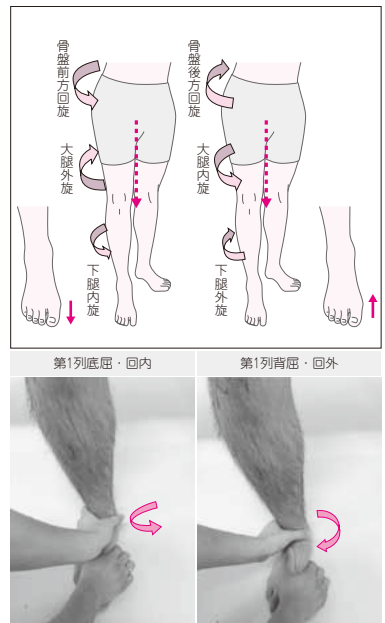


図 5 ● 第 1 列の運動連鎖 (a) と徒手誘導 (b)
a 第 1 列が底屈(回内)・背屈(回外)した場合の近位体節に起こる運動。
b 下腿遠位部(内外果)の誘導にて、間接的に第 1 列の底屈(回内)・背屈(回外)の誘導を実施する(左: 遠位下腿の内旋誘導, 右: 遠位下腿の外旋誘導)。
(図 5a: 入谷誠: 足底板セミナー中級編, 16. 身体運動学的アプローチ研究会, 2011 より引用)

- p. 234 下記の文の文末に文献番号を追加いたします。

膝伸展-腸骨前傾では立脚相前半が、膝屈曲-腸骨後傾では立脚相後半の動きが優位になる²⁰⁾。

● p. 235 図 6, 7 の図説に引用表記を追加いたします。

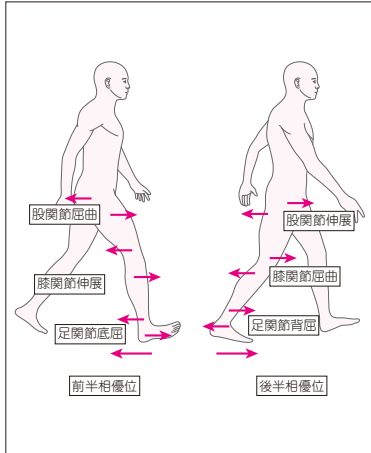


図 6 ● カウンター理論 (矢状面)
一つの分節の方向に力が加われば、隣接する分節には必ず反対方向の力が加わる。特に、長管骨では近位部では近位分節と関節をなし、遠位部では遠位分節と関節をなすことから、近位部と遠位部でのカウンター作用がある。膝伸展では大腿遠位の後方移動と下腿近位の前方移動が起こる。カウンターにおける近位への作用として膝伸展には腸骨前傾を伴いやすい。これは立脚前半の動きを優位にさせやすい。膝屈曲では大腿遠位の前方移動と下腿近位の後方移動が起こる。カウンターにおける近位への作用として膝屈曲には腸骨後傾を伴いやすい。これは立脚後半の動きを優位にさせやすい。(文献 20 より引用)

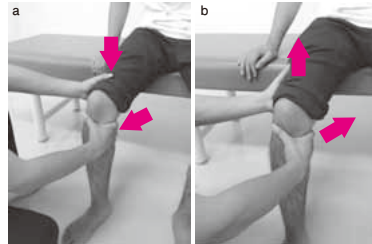


図 7 ● 膝伸展・屈曲の徒手誘導
a 膝伸展の徒手誘導を行う場合には、遠位大腿の後方移動と近位下腿の前方移動を促す。
b 膝屈曲の徒手誘導を行う場合には、遠位大腿の前方移動と近位下腿の後方移動を促す。
(入谷誠：身体運動学的アプローチ研究会 2011 より引用)

● p. 236 図 8, 9 の図説に引用表記を追加いたします。

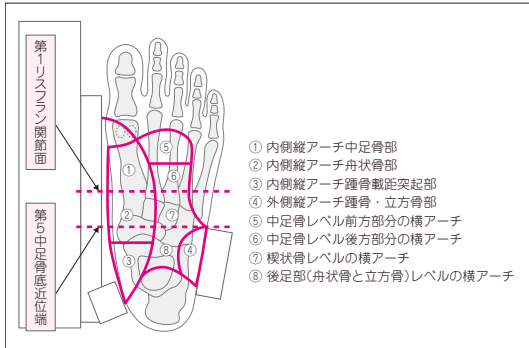


図 8 ● 入谷式足底板の形状
STJ 回内誘導の際には③を削り、第 1 列を底屈・回内誘導する際には①を削る。アーチパッドやグラインダーなどが準備できる場合には、このような方法をとることも可能である。
(入谷誠：足底板セミナー中級編, 16. 身体運動学的アプローチ研究会, 2011 より引用)

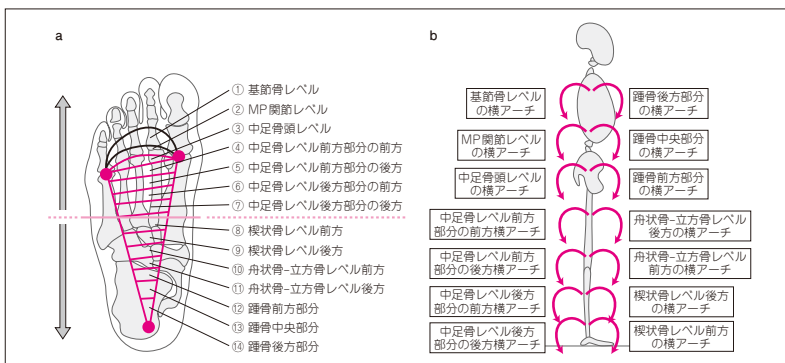


図 9 ● 横アーチの分類 (a) と姿勢制御システム (b)
矢状面の姿勢制御を担う足底部位 (a) とそれに対応した身体各分節 (b)。徒手誘導の結果、膝伸展(大腿遠位の後方移動と下腿近位の前方移動)が示唆されれば、中足骨レベル前方部分の後方横アーチと楔状骨レベル後部分の横アーチへ介入する。(文献 27 より引用)